

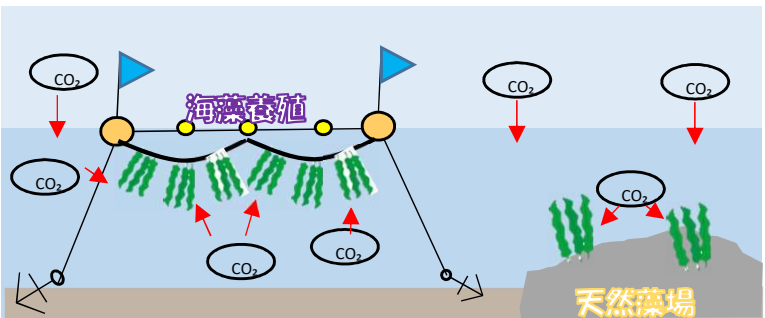
令和6年度留萌市ブルーカーボン推進試験事業について

留萌市では、国が2050年までに二酸化炭素（CO₂）をはじめとする温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを目指すことを提言している中、当地区においても「ブルーカーボン」によるCO₂吸収源対策、さらには水産業振興策両面での推進に向けた実証試験を行い、将来、事業化による地区における環境対策につなげ、更には、経済対策に寄与するよう取り組みを進める。

R6 取組内容

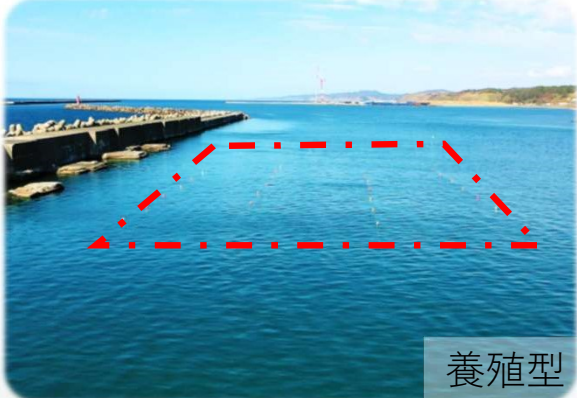
- ①海藻（草）類種苗生産試験（通年）
 - 各海藻（草）類の種苗生産試験を行う。
 - ・コンブ・ワカメなどの養殖用種苗糸生産
 - ・基質を利用した、海藻（草）類の増殖用種苗生産
- ②養殖試験及び追跡調査（通年）
 - ①で生産した種苗による養殖及び追跡調査
 - ・R5年度に設置した海藻種苗の追跡調査
 - ・R6年度に生産した海藻類種苗の養殖及び追跡調査
 - ・海藻（草）類の成長に影響を与える海水等環境状況調査

実施時期 R6.4～R7.3
 実施場所 留萌沿岸域 三泊蓄養施設
 実施主体 留萌市
 予算要求額 2,804千円
 財 源 地域づくり総合交付金（1/2）



～ブルーカーボンのしくみ～

- ①大気中に排出されたCO₂が海中に溶け込む
- ②海藻（草）は成長とともに光合成により炭素を吸収する
- ③吸収した炭素は個体に固定されるため海中の炭素は減少する
- ④海藻（草）が深海へ運ばれるなどし、長期的な炭素固定につながる
- ⑤炭素固定量は論文値を参考に算出、海藻養殖においては、成長までの炭素固定量がCO₂削減量となるため、**大きな海藻を作ることが炭素固定につながる**



節	内容	詳細	単価	数量	金額	内訳
旅費	事業打合せ	江別市	7,540	1名×2回	54,000	
	講習受講	札幌市	7,620	1名×5回		
需用費	海藻類飼育・養殖資材		800,000	一式	800,000	種苗生産に関する資材及び養殖資材
役務費	用船料		46,200×税	15回	763,000	養殖試験用船料
	通信運搬費		5,000	一式	5,000	
備品購入費	飼育管理備品		393,800	3本	1,182,000	水温塩分口ガ-
合 計					2,804,000	

試験内容とスケジュール

- ①留萌に自生する海藻から養殖種苗(種苗糸)を作成
- ②①で作成した種苗を用いた海藻養殖
- ③海藻養殖の環境測定(水温・塩分・照度)
～今後の可能性の模索～
- ③天然海草活用の可能性の模索
- ④天然藻場造成の可能性の模索

海藻: 孢子植物 コンブ・ワカメ 等
海草: 種子植物 アマモ・スガモ 等

内容/月	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7
海藻養殖																
ワカメ		母藻確保 育成	種苗糸生産	育成	育成	育成	養殖開始				状況確認・追跡調査		R6生産分	最大に 生長		
リシリコンブ		母藻確保 育成	種苗糸生産	育成	最大に 生長		養殖開始				状況確認・追跡調査		R6生産分			最大に 生長
チヂミコンブ							母藻確保 育成	種苗糸生産		養殖開始		状況確認・追跡調査		R6生産分		最大に 生長
養殖型管理									通年							
環境測定									通年							
海草/天然藻場可能性調査									通年							

※留萌海域における海藻養殖は行われてきていないため、他地区を参考にした予想スケジュール

～コンブの生活史について～

天然藻場のコンブは2年かけて最大長まで成長する。(1年の種も有)
養殖では1年で最大長まで成長させる促成コンブ技術を活用され、本試験でも活用。

内容	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏
天然	孢子放出	発芽	生長	最大のち減少	生長	生長	生長	最大のち消失
養殖								
通常の養殖方法の場合	採苗	発芽	生長	最大のち減少	生長	生長	生長	最大のち消失
促成コンブの場合	採苗・発芽	生長	生長	最大のち消失				